

公開文書

機械学習を用いた尋常性白斑における治療効果を予測する因子の検討

尋常性白斑は自己免疫反応によりメラノサイトが消失する難治性皮膚疾患です。ステロイドやタクロリムス、活性型ビタミン D3 などの外用薬や紫外線が治療に用いられますが、治療効果は患者や皮疹ごとにまちまちで予後の予測は困難です。したがって、今後どのような特徴をもつ患者さんに治療効果があるかを予測することができる因子の同定が望まれます。

これまで筑波大学皮膚科では機械学習（AI）を用いて皮膚悪性腫瘍における診断補助システムを開発してきました。そこで本研究では、この方法を応用して、尋常性白斑における治療効果や予後の予測因子の同定を目指します。

この研究は筑波大学附属病院倫理委員会の審査と承認をもとに行われております。対象者は 2014 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの間、当院で尋常性白斑として治療を受けられた方です。

目的および方法

この研究の目的は、尋常性白斑で治療を受けている患者さんの臨床写真のなかから、AI を用いて治療効果や予後の予測因子の同定することです。この研究では、カルテに残されている診療記録などの臨床情報も使い、臨床情報との相関も解析します。

研究期間

研究期間は倫理委員会承認後から 2026 年 3 月を予定しております。

本研究は筑波大学附属病院の倫理委員会で認められた期間に行いますが、倫理委員会で認められた期間を超える場合は、倫理委員会に期間延長を申請し、再度承認を受けることといたします。

利用開始予定日：2024 年 12 月 1 日

提供開始予定日：該当なし

参加したときと参加しなかったときに予想されること

この研究で得られる成果は、多くの患者さんからの情報を集計して解析しないと明らかにならないことが予想されます。従って、この研究で得られた結果からのあなたへの直接の利益はありません。一方で、想定される不利益もありません。

試料・情報

外来及び入院中に撮像した臨床写真を用いて臨床研究を行います。具体的には、臨床写真を前処理してからプログラミングを用いて機械学習を行います。情報は第三者へは提供されません。

費用などの負担について

この研究を実施するにあたり、負担していただく費用はありませんし、負担軽減費などをお支払いすることはありません。

個人情報管理について

解析結果や臨床情報はもちろんのこと、お名前やご住所などの個人情報の保護には十分配慮いたします。個人情報は暗号化され、番号で扱われます。番号の対応表や同意書などの研究に関わる書類やデータは厳重に保管します。

研究の進行状況や発表について

研究の結果は、学術雑誌および学会において発表される可能性があります。しかしながら、研究に用いた情報が誰のものか判らないように守られているため、あなたの個人情報は保護されます。この研究で新しい発見があった場合、その発見は知的財産として認められることがあります。そのときのすべての権利は研究責任者側が有することになります。

研究終了後の個人情報について

本研究で用いた資料・情報は、筑波大学研究資料等の保存に関するガイドライン(H29年3月2日)に基づき、当該論文等の発表後10年間保存します。保管期間終了後、関連するファイル・データを完全に消去しデータが保存されていたHDD・SSD等を破棄する場合は、復元できないよう物理

的に破壊した後に廃棄します。

お問い合わせ

ご本人またはご家族の方で、この研究に情報を使用されることを望まれない場合や、その他詳しく説明をして貰いたいことや心配なことがあればいつでも下記にご連絡ください。

問い合わせ窓口：筑波大学医学医療系 皮膚科

郵送先：〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話：029-853-3128（平日 10時から 17時まで）

ファックス：029-853-3217

電子メール：hf66tobu@md.tsukuba.ac.jp

施設研究責任者：乃村 俊史